(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3102014号
(U3102014)
(45)発行日　平成16年6月24日(2004.6.24)　(24)登録日　平成16年3月17日(2004.3.17)

(51)Int.Cl.[7]　F I
G09F 21/04　G09F 21/04　U

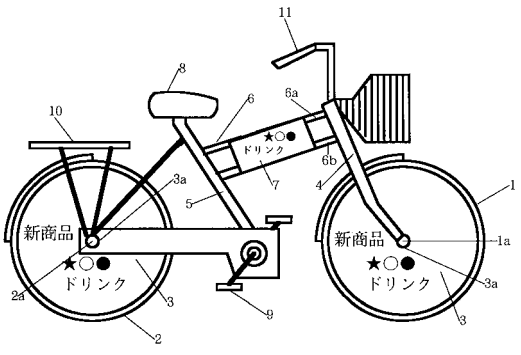
評価書の請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 7 頁）

(21)出願番号　実願2003-272826(U2003-272826)
(22)出願日　平成15年12月1日(2003.12.1)

(73)実用新案権者　503441610
桐田　哲雄
神奈川県横浜市中区山下町２５－１６　ニューポートビル４Ｆ　ＮＰＯナイス・ヨコハマ内
(74)代理人　100096035
弁理士　中澤　昭彦
(72)考案者　桐田　哲雄
神奈川県横浜市中区山下町２５－１６　ニューポートビル４Ｆ　ＮＰＯナイス・ヨコハマ内

(54)【考案の名称】自転車用広告表示具

(57)【要約】
【課題】
表示されている広告が側面側から見られ、かつ広い広告表示領域を確保できることにより、非常に広告効果が高い自転車用広告表示具を提供する。
【解決手段】
本考案の自転車用広告表示具は、自転車の前輪１及び後輪２の車軸１ａ，２ａにそれぞれ着脱可能に取り付けられた第１の広告表示板３と、前輪１側の前パイプ４と後輪２側の立パイプ５とを連結する支持パイプ６に着脱可能に取り付けられた第２の広告表示板７とを有する。
【選択図】　図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
自転車の車輪の車軸に着脱可能に取り付けられた第１の広告表示板と、
前輪側の前パイプと後輪側の立パイプとを連結する支持パイプに着脱可能に取り付けられた第２の広告表示板と、
を有することを特徴とする自転車用広告表示具。
【請求項２】
前記第１の広告表示板及び／又は第２の広告表示板は、発光部で発光表示されることを特徴とする請求項１に記載の自転車用広告表示具。
【請求項３】
前記第１の広告表示板及び／又は第２の広告表示板は、蛍光材で表示されることを特徴とする請求項１又は２に記載の自転車用広告表示具。
【請求項４】
前記第１の広告表示板及び／又は第２の広告表示板には、風抜け用の切欠部が形成されていることを特徴とする請求項１乃至３のいずれか１つの項に記載の自転車用広告表示具。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、自転車の車軸や支持パイプに着脱可能に取り付けられた広告表示板を備えた自転車用広告表示具に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、自転車用広告表示具としては種々のものが提案されている。例えば実開昭６３－１４４６８６号公報には、自転車の前かご前面に広告表示した看板を取付金具とネジを用いて取り付けたものが提案されている（以下、この技術を従来例１という）。
【０００３】
また、図５に示すように、自転車のサドルシート１００の後側に設置される自転車用広告表示具が知られている。この自転車用広告表示具は、荷台１０１の両側面に取り付けられ、表面に広告を表示した一対の側板１０２と、両側板１０２の上部に取り付けられ、表面に広告を表示した背面板１０３とから構成されている（この技術を従来例２という）。
【０００４】
さらに、例えば特開平８－２１６６０１号公報には、自動車のホイール部に広告を表示したホイール広告体が提案されている（以下、この技術を従来例３という）。
【０００５】
【特許文献１】実開昭６３－１４４６８６号公報
【特許文献２】特開平８－２１６６０１号公報
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００６】
従来例１の自転車用広告表示具では、広告表示した看板が前かごの前面に取り付けられるので、広告表示領域が狭いという課題がある。また、通常、通行人は、正面から自転車が進行してくると、自転車を避けようとするので、正面側に表示された広告が通行人に見られることが少なく、広告効果が少ないという課題がある。
【０００７】
従来例２の自転車用広告表示具では、側板及び背面板に表示された広告は、通告人によって自転車の側面側及び背面側から見られることが多いので、広告効果は高い。しかし、自転車のサドルシートに取り付けられるので、運転の支障が生じないように、大きな広告表示具を取り付けることは困難である。そのため、広告表示領域が狭いという課題がある。

【０００８】
従来例３では、自動車のホイールに取り付けられるホイールキャップが提案されており、自転車用にも適用できる旨が記載されているが、具体的にどのように適用されているのか開示されていない。また、前輪側の前パイプと後輪側の立パとを連結する支持パイプに広告表示板を取り付ける点については何ら開示されておらず、それを示唆する記載もない。
【０００９】
本考案は、上記課題を解決するためになされたものであり、表示されている広告が側面側から見られ、かつ広い広告表示領域を確保できることにより、非常に広告効果が高い自転車用広告表示具を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【００１０】
本考案の自転車用広告表示具は、自転車の車輪の車軸に着脱可能に取り付けられた第１の広告表示板と、前輪側の前パイプと後輪側の立パイプとを連結する支持パイプに着脱可能に取り付けられた第２の広告表示板とを有することを特徴とするものである。
【００１１】
前記第１の広告表示板及び／又は第２の広告表示板は、発光部で発光表示されてもよい。
【００１２】
前記第１の広告表示板及び／又は第２の広告表示板は、蛍光材で表示されてもよい。
【００１３】
前記第１の広告表示板及び／又は第２の広告表示板には、風抜け用の切欠部が形成されていてもよい。
【考案の効果】
【００１４】
本考案の自転車用広告表示具によれば、第１の広告表示板及び第２の広告表示板によって、表示された広告が側面側から見られ、かつ広い広告領域を確保できるので、非常に広告効果が高い。
【００１５】
また、第１の広告表示板及び第２の広告表示板は自転車に着脱可能に取り付けられているので、いろいろな種類の広告を表示することが可能となる。
【考案を実施するための最良の形態】
【００１６】
以下、本考案の実施例について図面を参照して説明する。
【実施例１】
【００１７】
図１は、本考案の実施例１に係る自転車用広告表示具を示す側面図である。図１に示すように、本考案の実施例１に係る自転車用広告表示具は、自転車の前輪１及び後輪２の車軸１ａ、２ａにそれぞれ着脱可能に取り付けられた第１の広告表示板３と、前輪１側の前パイプ４と後輪２側の立パイプ５とを連結する支持パイプ６に着脱可能に取り付けられた第２の広告表示板７とを有する。
【００１８】
第１の広告表示板３及び第２の広告表示板７の表面には、文字、図形、模様等からなる広告が表示されている。第１の広告表示板３及び第２の広告表示板７は、例えば軽量で剛性のあるペット樹脂等で作られるのが好ましい。
【００１９】
第１の広告表示板３には、前輪１、後輪２の車輪１ａ、２ａに嵌合される嵌合孔３ａが形成されている。第１の広告表示板３を着脱する場合には、例えば車軸１ａ、２ａと前パイプ４とを取り外して行われる。
【００２０】

自転車の支持パイプ６は、上パイプ６ａと下パイプ６ｂとからなり、第２の広告表示板７は、上パイプ６ａと下パイプ６ｂとの間にネジ等により着脱可能に取り付けられている。

【００２１】

立パイプ５の上端にはサドル８が設けられ、その下端にはペダル９が回転可能に取り付けられている。立パイプ５の後方には後輪２が設けられている。後輪２の上方には荷台１０が設けられている。

【００２２】

一方、前パイプ４の上端にはハンドル１１が設けられ、その下端には前輪１が設けられている。

【００２３】

本考案の実施例１に係る自転車用広告表示具によれば、第１の広告表示板３及び第２の広告表示板７に表示されている広告が側面側から見られ、かつ広い広告領域を確保できるので、非常に広告効果が高い。

【００２４】

また、第１の広告表示板３及び第２の広告表示板７は自転車に着脱可能に取り付けられているので、いろいろな種類の広告を表示することが可能となる。

【実施例２】

【００２５】

図２（Ａ）は、本考案の実施例２に係る自転車用広告表示具に用いられる第１の広告表示板３を示す説明図、（Ｂ）は第２の広告表示板７を示す説明図である。

【００２６】

図２（Ａ）及び（Ｂ）に示すように、本考案の実施例２に係る自転車用広告表示具に用いられる第１の広告表示板３及び第２の広告表示板７は、発光ダイオード等の発光部１２で発光表示されることを特徴としている。

【００２７】

図２（Ｃ）は、発光部１２の発光手段を説明するためのブロック図である。図２（Ｃ）に示すように、発光部１２の発光手段は、車輪の回転によって発電する発電部１３と、発電部１３の出力を整流する整流部１４と、整流部１４及び発光部１２に接続された充電部１５とからなる。

【００２８】

自転車の走行時では、発電部１３が発電すると、発光部１２が発光し、それと同時に発電部１３から出力された電力が充電部１５に充電される。自転車の停止時では、発電部１３からの出力は停止するが、充電部１５に充電された電力により発光部１２を発光させることができる。

【００２９】

実施例２によれば、第１の広告表示板３及び第２の広告表示板７が、発光ダイオード等の発光部１２で発光表示されるので、夜間時や遠方からでもよく目立つため、広告効果をより高めることができる。

【００３０】

なお、透明の第１の広告表示板３及び第２の広告表示板７の裏側に発光部１２を取り付けて、発光表示するように構成してもよい。

【実施例３】

【００３１】

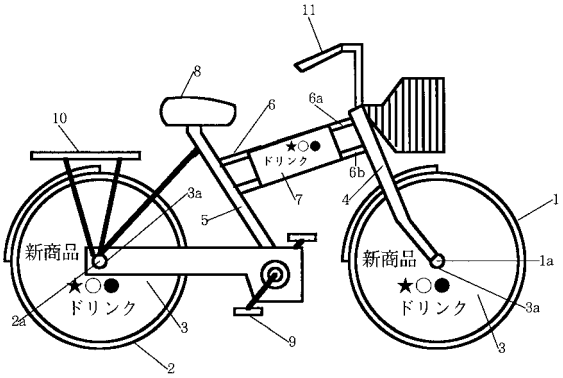
図３（Ａ）は、本考案の実施例３に係る自転車用広告表示具に用いられる第１の広告表示板３を示す説明図、（Ｂ）は第２の広告表示板７を示す説明図である。

【００３２】

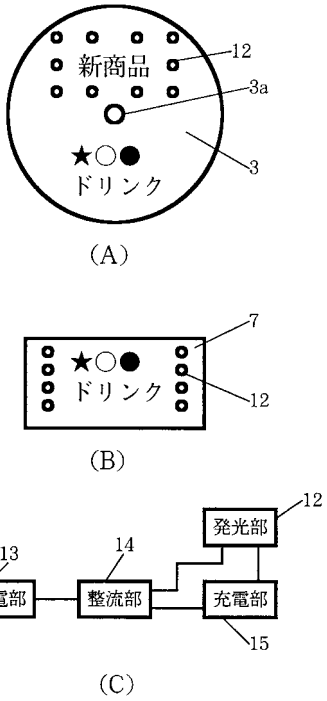
図３（Ａ）及び（Ｂ）に示すように、本考案の実施例３に係る自転車用広告表示具に用いられる第１の広告表示板３及び第２の広告表示板７は、蛍光塗料等の蛍光材１６で表示されることを特徴とする。これによって、夜間時でも、広告表示を確実に認識できるので

、広告効果をより高めることができる。
【実施例４】
【００３３】
図４（Ａ）は、本考案の実施例４に係る自転車用広告表示具に用いられる第１の広告表示板３を示す説明図、（Ｂ）は第２の広告表示板７を示す説明図である。
【００３４】
図４（Ａ）及び（Ｂ）に示すように、本考案の実施例４に係る自転車用広告表示具に用いられる第１の広告表示板３及び第２の広告表示板７は、風抜け用の切欠部１７が形成されていることを特徴とする。これによって、自転車が側面側から風を受けても第１の広告表示板３及び第２の広告表示板７に形成された切欠部１７から風が抜けるので、自転車が風に当たって傾くのを防止できるとともに、広告表示板の軽量化を図ることができる。
【００３５】
本考案は、上記実施例に限定されることはなく、実用新案登録請求の範囲に記載された技術的事項の範囲内において、種々の変更が可能である。例えば、第１の広告表示板３は、前輪１又は後輪３のいずれか一方だけに取り付けられてもよく、また、発光部１２と蛍光材１６の両方も用いてもよい。
【図面の簡単な説明】
【００３６】
【図１】本考案の実施例１に係る自転車用広告表示具を示す側面図である。
【００３７】
【図２】（Ａ）は、本考案の実施例２に係る自転車用広告表示具に用いられる第１の広告表示板を示す説明図、（Ｂ）は第２の広告表示板を示す説明図、（Ｃ）は発光部の発光手段を説明するためのブロック図である。
【００３８】
【図３】（Ａ）は、本考案の実施例３に係る自転車用広告表示具に用いられる第１の広告表示板を示す説明図、（Ｂ）は第２の広告表示板を示す説明図である。
【００３９】
【図４】（Ａ）は、本考案の実施例４に係る自転車用広告表示具に用いられる第１の広告表示板を示す説明図、（Ｂ）は第２の広告表示板を示す説明図である。
【００４０】
【図５】従来の自転車用広告表示具の一例を示す斜視図である。
【符号の説明】
【００４１】
１：前輪
２：後輪
３：第１の広告表示板
４：前パイプ
５：立パイプ
６：支持パイプ
７：第２の広告表示板
８：サドル
９：ペダル
１０：荷台
１１：ハンドル
１２：発光部
１３：発電部
１４：整流部
１５：充電部
１６：蛍光材
１７：切欠部

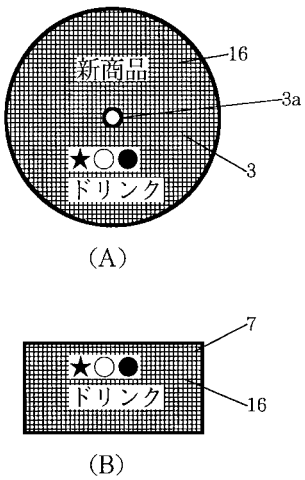
【図１】


11
8
10
6
6a
★○●
ドリンク
6b
4
1
3a
5
7
新商品
★○●
ドリンク
2a
3
9
2
新商品
★○●
ドリンク
1a
3a
3

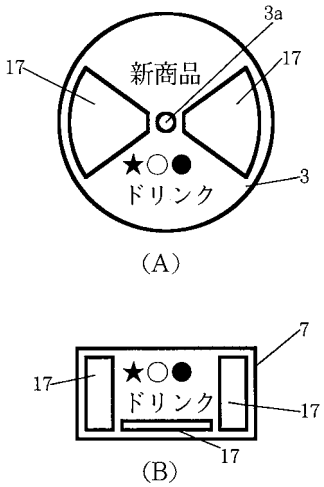
【図２】


新商品
12
3a
★○●
ドリンク
3
(A)
7
★○●
ドリンク
12
(B)
12
発光部
13
14
発電部
整流部
充電部
15
(C)

【図３】


新商品
16
3a
★○●
ドリンク
3
(A)
7
★○●
ドリンク
16
(B)

【図４】


3a
17
新商品
17
★○●
ドリンク
3
(A)
7
17
★○●
ドリンク
17
17
(B)

【図５】

